

R6~R9 No.	項目名称	検査方法	基準値	報告単位	報告日数(単位:日)	その他検査条件	測定試薬	概算数量(4年)	単価	概算金額(4年)
1	黄体形成ホルモン	CLIA法	●黄体形成ホルモン(LH)(基準値) M: 0.8~5.7 F: 卵胞期1.8~10.2 排卵期2.2~88.3 黄体期1.1~14.2 閉経後5.7~64.3 (単位:mIU/ml)	mIU/ml	1~3		アーキテクト・LH II	3,724		
2	卵胞刺激ホルモン	CLIA法	●卵胞刺激ホルモン(FSH)(基準値) M: 2.0~8.3 F: 卵胞期3.0~14.7 排卵期3.2~16.6 黄体期1.5~8.5 閉経後157.8以下 (単位:mIU/ml)	mIU/ml	1~3		アーキテクト・FSH	4,208		
3	尿中C-ペプチド(CPR)	ECLIA法	22.8~155.2	μg/day	2~3	i-XB63尿C-ペプチド安定剤を用意すること。	エクルーシス試薬 C-ペプチド	1,192		
4	結核菌DNA(リアルタイムPCR)	リアルタイムPCR法	(-)	なし	2~4	陽性の場合、その旨を翌日までに、連絡する事(金曜日依頼の場合は土曜日連絡すること)	コバスタqMan MTB	604		
5	MAC DNA(リアルタイムPCR)	リアルタイムPCR法	(-)	なし	2~4		コバスタqMan MAI	168		
6	寒冷凝集反応	HA法	64倍未満	倍	3~4		自社調製	108		
7	抗ストレプトキナーゼ抗体(ASK)	PA法	1280倍以下	倍	2~3		セロテック-ASK	148		
8	マイコプラズマニューモニエ[CF]	CF法	4倍未満	倍	3~5		肺炎マイコプラズマCF試薬「生研」CF抗原	48		
9	マイコプラズマニューモニエ[PA]	PA法	40倍未満	倍	2~3		セロテック-MYCO II	328		
10	IgD[ラテックス凝集免疫法]	ラテックス凝集比濁法	12.6以下	mg/dl	2~3		LX試薬 栄研 IgD-II	1		
11	クリオグロブリン定性	寒冷沈殿法	(-)	なし	3~5		使用試薬なし	1,116		
12	クラミジア(クラミドフィラ)ニューモニエIgG(EIA)	EIA法	(-) (判定基準) カットオフインデックス値 判定 1.0未満 (-) 1.0~1.1 (±) 1.2以上 (+)	なし	3~5		スマイテックELISA「クラミジアニューモニエ抗体IgG」	24		
13	尿素呼吸気試験(IR)	IR法(赤外分光分析)	ユービット服用20分後のΔ13C(投与前との差)2.5‰(パーミル)未満	パーミル	2~3		試薬未使用	704		
14	クラミジア(クラミドフィラ)ニューモニエIgA(EIA)	EIA法	(-) (判定基準) カットオフインデックス値 判定 1.0未満 (-) 1.0~1.1 (±) 1.2以上 (+)	なし	3~5		スマイテックELISA「クラミジアニューモニエ抗体IgA」	24		
15	オウム病クラミジア(クラミジアシタシ)[CF]	CF法	4倍希釈より実施	倍	3~5		オウム病クラミジアCF試薬「生研」CF抗原	16		
16	抗ヘリコバクターピロリIgG抗体	ラテックス凝集比濁法	(-) 10.0未満	U/ml	2~3		LZテスト 栄研 H.ピロリ抗体	1,048		
17	百日咳抗体	EIA法	10倍希釈より実施	倍	3~5		百日咳抗体EIA「生研」	68		
18	α1アンチトリプシン	ネフェロメトリー	94~150	mg/dl	2~3		N-抗血清 α1-アンチトリプシン	8		
19	セロロプラスミン	ネフェロメトリー	21.0~37.0	mg/dl	2~3		N-抗血清セロロプラスミン	556		
20	トキソプラズマIgG抗体	CLEIA法	(-) 7.5未満	IU/ml	2~5		アクセス トキソ IgG	1,848		
21	トキソプラズマIgM抗体	CLEIA法	(-) S/CO 0.8未満	なし	2~5		アクセス トキソ IgM II	1,840		
22	尿中トランスフェリン	ラテックス凝集法	0.9以下	mg/g・Cr	2~3		N-アッセイ LA Micro Tf ニット	840		
23	抗GAD抗体/E	EIA法	5.0未満	U/ml	2~3		GADAb ELISA「コスミック」	2,824		
24	FTA-ABS	蛍光抗体法	陰性	なし	3~7		FTA-ABSテスト-SG-KIT(KW)	4		
25	アスペルギルス抗原[ELISA]	EIA法	(-) カットオフインデックス 0.5未満	なし	2~4		ブラテック アスペルギルス Ag EIA	3,968		
26	クリプトコックス・ネオフォルマン抗原	ラテックス凝集法	(-)	なし	2~3		セロテック 栄研 クリプトコックス	1		
27	クリプトコックス抗原-F	ラテックス凝集法	(-)	なし	2~3		セロテック 栄研 クリプトコックス	1,844		
28	クラミジアトラコマティスIgG[ELISA]	EIA法	(-) (判定基準) インデックス値 判定 1.1以上 陽性(+) 0.9以上1.1未満 判定保留(±) 0.9未満 陰性(-)	なし	2~3		クラミジア抗体IgA/IgG「エルエスアイM」	16		
29	ツツガムシギリアムIgG	蛍光抗体法	10倍未満	倍	3~5		FA標本R・ツツガムシ「生研」 Gilliam株・抗ヒトIgG(γ)FITC標識	1		
30	ツツガムシギリアムIgM	蛍光抗体法	10倍未満	倍	3~5		FA標本R・ツツガムシ「生研」 Gilliam株・抗ヒトIgM(μ)FITC標識	1		
31	ツツガムシカトーIgG	蛍光抗体法	10倍未満	倍	3~5		FA標本R・ツツガムシ「生研」Kato株・抗ヒトIgG(γ)FITC標識	1		
32	ツツガムシカトーIgM	蛍光抗体法	10倍未満	倍	3~5		FA標本R・ツツガムシ「生研」Kato株・抗ヒトIgM(μ)FITC標識	1		
33	ツツガムシカーブIgG	蛍光抗体法	10倍未満	倍	3~5		FA標本R・ツツガムシ「生研」Karp株・抗ヒトIgG(γ)FITC標識	1		
34	ツツガムシカーブIgM	蛍光抗体法	10倍未満	倍	3~5		FA標本R・ツツガムシ「生研」Karp株・抗ヒトIgM(μ)FITC標識	1		
35	好中球殺菌能	フローサイトメトリー法	40.0~80.0	%	3~4		自社調製	1		
36	好中球貪食能	フローサイトメトリー法	70.0以上	%	3~4		自社調製	1		
37	Ig-G(前房水)	ネフェロメトリー	なし(参考値扱い)	mg/dl	2~3		N-抗血清IgG	104		
38	Ig-M(前房水)	ネフェロメトリー	なし(参考値扱い)	mg/dl	2~3		N-抗血清IgM	104		
39	C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	発色性合成基質法	70.0 ~ 130.0	%	4~10		ペリクロームC1-インアクチベーター	160		
40	オリゴクローナルIgGバンド/IF	等電点電気泳動法	陰性バンド数0~1	なし	7~8		泳動膜:PhastGel IEF3-9 試薬:Protein Silver Staining Kit	744		
41	塩基性フェトプロテイン	EIA法	75未満	ng/ml	2~5		テオサイム BFPプレート	1		
42	CA6021[ELISA]	EIA法	63.0以下	U/ml	2~4		プレートイリス CA602試薬	1		
43	ノンアルベルト	比濁法 (Nonne-Apelt混合法)	(-)	なし	2~3		ノンアルベルト液	1		
44	パンディー	比濁法 (Pandy法)	(-)~(+)	なし	2~3		パンディー液	1		
45	トリプトファン	比色法 (見易変法)	(-)	なし	2~3		自社調製	1		
46	δ-アミノレブリン酸	HPLC法	なし	mg/l	3~5		自社調製	4		
47	ミエリン塩基性蛋白(MBP)	EIA法	102.0以下	pg/ml	3~6		ミエリン塩基性蛋白 ELISAキット	12		
48	FDP定量(尿中)	ラテックス凝集法	100以下	ng/ml	2~3		NSオート FDP(247B)	1		
49	可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	凝集反応	(-)	なし	2~5		FMテスト	1		
50	プラスミンゲン	合成基質法	80~130	%	2~3		テストチーム S PLG	396		
51	アンチプラスミン(α2プラスミンインヒビター)	合成基質法	80~130	%	2~3		テストチームS APL	48		
52	第Ⅷ因子様抗原定量(フォンヴィレブランド因子抗原定量)	ラテックス凝集法	60 ~ 150	%	2~6		STA ライアテストWF	100		
53	フォンヴィレブランド因子活性(リステチンコファクター)	固定血小板凝集法	50~150	%	2~5		BC フォンヴィレブランド試薬	720		
54	第Ⅷ因子凝固活性	ヒト欠乏血漿による補正法	78.0~165.0	BU/ml	2~5		第Ⅷ因子欠乏血漿・ハトロンチンSL	264		
55	第Ⅸ因子凝固活性	ヒト欠乏血漿による補正法	67.0~152.0	BU/ml	2~5		第Ⅸ因子欠乏血漿・ハトロンチンSL	72		
56	第Ⅷインヒビター	Bethesda法	1.0以下	BU/ml	2~5		第Ⅷ因子欠乏血漿・正常血漿・ハトロンチンSL	208		
57	第Ⅸインヒビター	Bethesda法	1.0以下	BU/ml	2~5		第Ⅸ因子欠乏血漿・正常血漿・ハトロンチンSL	32		
58	α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PICTEST)	ラテックス凝集法	0.8以下	μg/ml	2~3		エルヒアエス PPI II	264		
59	プロテインS(遊離型抗原量)	ラテックス凝集法	60.0~150.0	%	2~3		STA ライアテストフリー・プロテインS	680		
60	β-トロンボグロブリン(β-TG)	EIA法	50以下	ng/ml	3~5	・血清0.3ccの検体量で結果報告できること(含む再検査量)。	アセラロム β-TG TMB	1		
61	血小板第4因子(PF-4)	EIA法	20以下	ng/ml	3~5	血清0.3ccの検体量で結果報告できること(含む再検査量)。	アセラロム PF4 TMB	76		
62	トロンピン・アンチトロンピンⅢ複合体(TAT)	CLEIA法	4.0未満	ng/mL	2~3		HISCL TAT試薬	512		
63	トロンボモジュリン	EIA法(プレート固相法)	M:2.1~4.1 F:1.8~3.9	FU/ml	2~8		TMハネテラ「プレート」	192		
64	第Ⅹ因子凝固活性	ヒト欠乏血漿による補正法	36.0~152.0	%	2~5		第Ⅹ因子欠乏血漿・ハトロンチンSL	80		
65	第Ⅹ因子抗原量	ラテックス凝集法	70~140	%	2~3		NSオート FXⅩ	248		
66	第Ⅶ因子凝固活性	ヒト欠乏血漿による補正法	54.0~162.0	%	2~5		第Ⅶ因子欠乏血漿・トロンボレルS	12		
67	トータルPAI-1(tPA・PAI-1複合体)	ラテックス凝集法	50以下	ng/ml	2~3		LPIA・tPAテスト	56		
68	プロテインC(抗原量)	LPIA法	70 ~ 150	%	2~5		エルヒアエスPC	528		
69	プロテインC活性	合成基質法	70~140	%	2~3		STA試薬シリーズ プロテインCクロ	736		
70	LAP	比色法(L-ロイシルpニトロアニリド基質法)	30~78	U/(37℃)	1~2		Lタイプウー LAP	116		
71	LAP(血液以外)	比色法(L-ロイシルpニトロアニリド基質法)	なし(参考値扱い)	U/l	1~2		Lタイプウー LAP	1		
72	遊離型コレステロール	酵素法	25~60	mg/dl	1~2		Lタイプウー 遊離コレステロール	256		
73	クレアチン	酵素法	M:170以下 F:290以下	mg/day	2~3		ダイヤカラー・リキッド CR	24		
74	リン脂質(PL)	酵素法	150~250	mg/dl	1~2		Lタイプウー リン脂質	4		

R6~R9 No.	項目名称	検査方法	基準値	報告単位	報告日数(単位:日)	その他検査条件	測定試薬	概算数量(4年)	単価	概算金額(4年)
75	リン脂質(血液以外)	酵素法	なし(参考値扱い)	mg/dl	1~2		Lタイプコーリン脂質	48		
76	遊離脂肪酸(FFA,NEFA)	電気泳動法(アガロース膜)	●リポ蛋白分画/アガロース法(基準値) α M: 27~51 F: 33~53 preβ M: 8~24 F: 7~21 β M: 35~56 F: 34~52 (単位:%)	%	1~2		クイックジェルLIPO	36		
77	血清銅(Cu)	比色法(3・5-DiBr-PAESA法)	66~130	μg/dl	1~2		クイックオートネオCu	2,340		
78	尿中銅(Cu)	原子吸光分光光度法	36以下	μg/l	4~10		自社調製	136		
79	アデニンデアミナーゼ(ADA)	酵素法	7.8~21.1	U/l	2~3		N-アッセイ ADA ニットロー	1		
80	アミラーゼアイソザイム	電気泳動法(セルロース・アセテート膜)	酵素法	%	2~4		クイックジェルAMYプレート、クイックジェルAMY試薬	96		
81	P型アミラーゼ定量	免疫阻害法	17~50	U/l	2~3		リキテック P-AMY EPS	204		
82	ALPアイソザイム	電気泳動法(アガロース膜)	ALP1 0 ALP2 36~74 ALP3 25~59 ALP4 0 ALP5 0~16 ALP6 0	%	2~4		クイックジェルALP・クイックジェルALP試薬	56		
83	LDHアイソザイム	電気泳動法(アガロース膜)	●LDアイソザイム(基準値) LD1 20~32 Hサブユニット55~70 LD2 28~35 Mサブユニット30~45 LD3 21~27 (単位:%) LD4 6~13 LD1/LD2 0.65~1.00 LD5 4~14 LD3/LD1 0.65~1.25 LD5/LD4 0.45~1.30 (単位:%) (基準値:活性値) 総活性値120~245 LD1/定量値24~78 LD2/定量値34~86 LD3/定量値25~66 LD4/定量値7~32 LD5/定量値5~34 (単位:U/l)	% U/l	2~4		クイックジェルLD・タイタンジェルS-LD・Lタイプコー LDH-J	2,156		
84	LDHアイソザイム(血液以外)	電気泳動法(アガロース膜)	なし	% U/l	2~4		クイックジェルLD・タイタンジェルS-LD・Lタイプコー LDH-J	1		
85	総胆汁酸(血清)	酵素法	(食後4時間以上経過)14.4以下	μmol/l	1~2		アクトアキストTBA試薬	1,512		
86	ミトコンドリア-GOT(GOT-m)	フロテアーゼ法	7以下	U/l(37℃)	2~3		m-GOT試薬・A「コグサイ」・ヒューオース AST-L	1		
87	リポ蛋白分画[アガロース電気泳動法]	電気泳動法(アガロース膜)	●リポ蛋白分画(泳動法)(基準値) α M: 25~50 F: 35~51 Preβ M: 8~32 F: 7~21 β M: 33~55 F: 38~51 (単位:%)	%	2~4		REP Lipo-30Kit・FatRed7B	112		
88	CPKアイソザイム	電気泳動法(アガロース膜)	BB(CK1) 0~2 ALB 0~9 MB(CK2) 0~6 MM(CK3) 87~98 (単位:%) M F 総活性値 50~230 50~210 BB/定量値 0~5 0~4 MB/定量値 0~14 0~13 MM/定量値 44~225 44~206 (単位:U/l)	%	2~4		クイックジェルCK・タイタンジェルCK・CPK-L	124		
89	コレステロール分画	電気泳動法(アガロース膜)	●コレステロール分画(基準値) M F HDL-C: 17~43 22~51 VLDL-C: 2~18 1~14 LDL-C: 51~77 45~72 (単位:%)	%	2~4		クイックジェル CH・コレトリコンボ CH	1		
90	ケトン体分画	酵素サイクリング法	総ケトン体131以下 アセト酢酸55以下 3-ヒドロキシ酪酸85以下	μmol/l	2~3		TKB-L試薬カニス・3HB-L試薬カニス	160		
91	L-CAT[テイルトイルレシチン基質法]	酵素法	235~550	U	2~3		アナソルPLCAT	1		
92	リポ蛋白分画[ディスク電気泳動法]	ポリアクリルアミドゲルディスク電気泳動法	●リポ蛋白分画(ポリアクリルアミドゲル電気泳動)(基準値) M F HDL: 22~50, 26~53 LDL: 44~69, 42~65 VLDL: 5~20, 4~17 (単位:%) ※RM値(相対移動度)も報告致します。	%	2~4		リポフォー	1		
93	1.5-アンヒドロ-D-グルシトール(1.5-AG)	比色法	14.0~46.0	μg/ml	2~3		テオ1.5AGオートリキット	136		
94	CPK-MB(CK-MB)[CLIA]	CLIA法	7.5以下	ng/ml	2~3		ケミルミACS-CK-MB	1		
95	アポリポ蛋白A-I	免疫比濁法(TIA法)	M:119~155 F:126~165	mg/dl	2~3		アポA-I オート-N「第一」	304		
96	アポリポ蛋白A-II	免疫比濁法(TIA法)	M:25.9~35.7 F:24.6~33.3	mg/dl	2~3		アポA-II オート-N「第一」	40		
97	アポリポ蛋白B	免疫比濁法(TIA法)	M:73~109 F:66~101	mg/dl	2~3		アポB オート-N「第一」	292		
98	アポリポ蛋白C-II	免疫比濁法(TIA法)	M:1.8~4.6 F:1.5~3.8	mg/dl	2~3		アポC-II オート-N「第一」	72		
99	アポリポ蛋白C-III	免疫比濁法(TIA法)	M:5.8~10.0 F:5.4~9.0	mg/dl	2~3		アポC-III オート-N「第一」	60		
100	アポリポ蛋白E	免疫比濁法(TIA法)	M:2.7~4.3 F:2.8~4.6	mg/dl	2~3		アポE オート-N「第一」	288		
101	PFID(PABA排泄率)	比色法(DACA法)	6時間排泄率 73.4~90.4	%	2~3		尿中PABA測定試薬「エーザイ」	1		
102	リポ蛋白(a)	免疫比濁法(TIA法)	40.0以下	mg/dl	2~3		LP(a)「アルジー」	252		
103	ウロポルフィリン(尿中)	HPLC法	2~25	μg/g・Cr	4~10		自社調製	4		
104	結石分析(成分比率)	赤外線吸収スペクトル法	設定なし	%	2~4		臭化カリウム	200		
105	心筋トロポニンT	ECLIA法	0.014以下	ng/ml	2~3		エクルーシス試薬トロポニンThs	200		
106	アルミニウム(AI)	原子吸光分光光度法	16以下	μg/l	3~7		自社調製	4		
107	子宮頸管粘液中顆粒球エラストラーゼ	ラテックス凝集免疫比濁法	1.6以下	μg/ml	2~3		イノテック・エラストラーゼ	1		
108	コプロポルフィリン-尿	HPLC法	8~168	μg/g・Cr	4~10		自社調製	4		
109	血清亜鉛(Zn)	原子吸光分光光度法	59~135	μg/dl	2~3		自社調製	3,252		
110	尿中亜鉛(Zn)	原子吸光分光光度法	85~1,000	μg/l	2~3		自社調製	44		
111	アンギオテンシン転換酵素(ACE)	比色法(笠原法)	7.0~25.0	U/l	2~3		ACEカラー	5,844		
112	心室筋ミオン軽鎖I	EIA法	2.5以下	ng/ml	2~4		ミオンIキット「ヤマサ」EIA II	4		
113	尿中ホルフォピリノーゲン定量	比色法(Mauzerall-Granick)	2.0以下	mg/day	5~11		自社調製	8		
114	トリプシン	EIA法	100~550	ng/ml	2~3		トリプシン(E)「S」	72		
115	レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	酵素法	7.5以下	mg/dl	2~3		メタホリド RemL-C	244		
116	コプロポルフィリン定量	HPLC法	(赤血球)1以下	μg/dl RBC	3~9		自社調製	8		
117	腫瘍ホスホリラーゼA2(腫PLA2)	RIA・固相法	130~400	ng/dl	2~3		SML「リア」腫PLA2	24		
118	ヒト胎児性フィブロネクチン	EIA法	(-)	ng/ml	2~3		イムノテスタFN	216		
119	リポ蛋白リパーゼ(LPL)	EIA法	164~284	ng/ml	2~8		LPL「ライザ」第一	1		
120	プロトポルフィリン	HPLC法	(赤血球)30~86	μg/dl RBC	3~9		自社調製	16		
121	総ホモシステイン	HPLC法	M:6.3~18.9 F:5.1~11.7	nmol/ml	5~11		自社調製	348		
122	全脂質中脂肪酸分画	GC法(キャピラリー)	分画成分名 略号 濃度(μg/ml) 成分比 (weight%) ラウリン酸 C12:0 6.7以下 0.20以下 ミリスチン酸 C14:0 10~49 0.57~1.34 パルミチン酸 C16:0 10~100 0.57~1.34	濃度: μg/ml 成分比: weight %	11~16		自社調製	16		
123	血中脂肪酸4分画	GC法	DHLA 10.9 - 43.5 アラキドン 85.1 - 207.8 EPA 11.6 - 107.2 DHA 48.6 - 152.4	μg/ml	4~6		自社調製	260		
124	アミノ酸分析2種類(チロシン・フェニルアラニン)	HPLC法	チロシン 39.7 - 89.4 フェニルアラニン 35.7 - 74.5 フェニルalanin 比 2.9 - 4.1	nmol/ml	4~6		自社調製	1		
125	アミノ酸分析(41種類)	HPLC法	アミノ酸名 n mol/ml Taurine 46.4~ 128.2 Phosphoethanolamine TRA Aspartic acid TRA~ 7.2 Hydroxyproline TRA ~18.8 Threonine 7.4	n mol/ml	4~10		MCI buffer, PF-セット K ANTO	72		

R6~R9 No.	項目名称	検査方法	基準値	報告単位	報告日数(単位:日)	その他検査条件	測定試薬	概算数量(4年)	単価	概算金額(4年)
126	11-OHCS	蛍光法(De Moore臼井変法)	AM8時~10時 5.0~21.4	μg/dl	3~9		自社調製	100		
127	HVA(血漿)	HPLC法	4.4 ~ 15.1	ng/ml	5~8		自社調製(カラム名:wakosil-2 5C18RS)	8		
128	HVA(髄液)	HPLC法	なし	ng/ml	5~8		自社調製(カラム名:wakosil-2 5C18RS)	1		
129	HVA(尿中)	LC-MS/MS法	蓄尿 2.40~6.00 mg/day 随時尿 2.20~5.80 mg/g・Cr	蓄尿:mg/day 随時尿:mg/g・Cr	3~4		自社調製	92		
130	VMA(血漿)	HPLC法	3.3 ~ 8.6	ng/ml	5~8		自社調製(カラム名:TSK-G ELDDS-80TS)	16		
131	VMA(尿中)	LC-MS/MS法	蓄尿 1.50~4.90 mg/day 随時尿 2.10~5.00 mg/g・Cr	蓄尿:mg/day 随時尿:mg/g・Cr	3~4		自社調製	1		
132	5-HIAA(血漿)	HPLC法	1.8 ~ 6.1	ng/ml	3~4		自社調製(カラム名:Wakosil-II 3C18HG)	1		
133	5-HIAA(髄液)	HPLC法	なし	ng/ml	5~8		自社調製(カラム名:Wakosil-II 3C18HG)	1		
134	5-HIAA(尿中)	LC-MS/MS法	0.5~5.0	mg/day	4~10		自社調製	1		
135	プロラクチン	CLIA法	M:3.6~12.8 F:6.1~30.5	ng/ml	1~3		アーキテクト・プロラクチン	3,472		
136	インスリンコウタイ(125 I 結合率確認試験)	RIA・PEG法	125 I インスリン結合率 0.4%未満	%	2~3		インスリン抗体キット「ヤマサ」	1		
137	インスリンコウタイ	RIA・PEG法	濃度 125.0未満 nU/ml 結合率 0.4未満 %	nU/ml %	4~7		インスリン抗体キット「ヤマサ」	120		
138	ガストリン	RIA・PEG法	42~200	pg/ml	2~4		ガストリン・リアキット II	4		
139	成長ホルモン(GH)	ECLIA法	男 2.47以下 女 0.13~9.88	ng/ml	1~4		エクレーシス試薬 hGH	4,064		
140	TIBC/比色法	比色法	M:250~410 F:250~460	μg/dL	1~2		クイックオートネオ Fe(K)・クイックオートネオ UIBC(Q)	4,976		
141	UIBC/比色法	比色法	M:120~330 F:110~425	μg/dL	1~2		クイックオートネオ UIBC(Q)	2,436		
142	MN分画-随時尿	LC-MS/MS法	なし	mg/L	2~4		自社調製	1,600		
143	MAC抗体	EIA法	(-) 抗体濃度(参考値):0.70未満	U/mL	2~4		キャピリアMAC抗体ELISA	1,448		
144	α1MG-尿	ラテックス凝集法	男 0.8~14.1 女 0.5~7.0	MG/L	2~4		LZテスト「栄研」α1-M	1,776		
145	TFPI2	EIA法	男 191.0未満 女 191.0未満	PG/ML	2~4		Eテスト「TOSOH」II (TFPI2)	1,520		
								74,960		

公立大学法人横浜市立大学附属病院外注検査業務委託に関する仕様書

1 趣旨

委託者公立大学法人横浜市立大学附属病院を甲、受託者を乙として、この仕様書を定める。

2 履行場所

横浜市金沢区福浦三丁目9番地

公立大学法人横浜市立大学附属病院及び乙の施設

3 業務体制

月曜日～金曜日（平日） 8時30分～17時15分

ただし、別紙「検査項目一覧」に検査結果の土曜日報告を定めている項目については、上記以外の日時においても業務を行うこと（FAX報告可）。

なお、変更の必要が生じた場合は、甲乙協議のうえ決定する。

4 履行期間

令和6年4月1日から令和10年3月31日まで（4年間）

契約金額及び仕様書は毎年度見直しを行う。

5 目的

甲の臨床検査機器の処理能力及び経済性等を考慮し、甲での実施が困難である検体検査について乙に委託する。

これにより、患者本位の高度専門医療を提供しながら、かつ効率的な臨床検査業務を推進する。

6 対象業務

甲は別紙「検査項目一覧（各分野）」についての検査を乙に委託し、乙はこれを受託するものとする。

7 受託資格

令和6年1月1日現在以下の条件をすべて満たし、当該業務の完了まで業務を履行できる者。

なお、以下（1）～（6）については、各々の証明書を提出すること。

- （1）横浜市一般競争入札資格者名簿に、営業種目「検査・測定」・細目「C臨床検査」を登録していること。
- （2）CAPの認定を取得していること。
- （3）ISO15189を取得していること。
- （4）自社検査実施率が90%以上であること。
- （5）情報セキュリティーに関する外部認定機関の認証を取得していること。
- （6）プライバシーマーク使用許諾証を取得していること。

※CAP : College of American Pathologists (米国臨床病理医協会)

ISO15189 : 臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項を定めた国際規格

8 契約方法

- (1) 設計書に示す検査項目分類ごとに、4年間分の概算金額で入札を行う。
- (2) 落札結果により業務に著しい支障が生じる場合は、契約相手方の調整を行う。

9 業務内容

- (1) 乙は院内及び乙の施設において以下の業務を行うこと。

ア 受託検査に係る依頼、問い合わせ等対応

受託検査に係る検体を受け付ける。

なお、受託検査に関する問い合わせ等に対応すること。

イ 特殊検体容器の常備及び院内への搬送

乙は、検査精度を保つため、専用容器を使用するものについては、検体管理に適した容器を準備し、院内に必要な数を常備すること。

ウ 受託検体の保管、搬送

乙は、検体の保管及び搬送については、検体ごとに必要な措置をとるものとし、正確な検査結果が得られるよう、善良な管理者の注意義務をもって管理しなければならない。

また、甲が定める既定フォーマットで検査依頼情報が入力された、電子媒体及び依頼書を検体とともに搬送すること。

エ 検査方法等

乙は搬送された検体に対して依頼された検査項目を別添の「外注検査委託項目内訳書」に定める検査方法、基準値、報告単位、その他検査条件のとおり検査を行うこと。

オ 検査結果の報告

(ア) 報告までの日数

乙は、受託検査を行うにあたり、検査項目ごとに別添の「外注検査委託項目内訳書」に定まる報告日数を遵守するものとする。

なお甲は、迅速な診断および治療の必要性等から特に検査所要日数を短縮する必要がある場合において、その旨を乙に要請することができる。この場合、乙は、関係部署と協議を行い、誠実に対応すること。

また乙は、再検査などの理由により報告日数以上を要する場合は、速やかに担当医師に連絡し了解を得なければならない。

(イ) 報告方法

報告はデータの連続性を担保するため、現行仕様の項目体系で検査結果情報を出力した電子媒体及び報告書で行うこと。

なお、甲が求める場合は、検査項目毎の報告件数が分かる月間稼働表を提出すること。

10 検査依頼情報と検査結果報告情報仕様

(1) 検査項目単位

ア オンライン仕様

乙は、甲の臨床検査部の検査システムと連動した乙のシステムを設置すること。

なお、受託検査依頼・検査結果報告情報については、甲の臨床検査部の検査システムに取り込めるフォーマット、内容、形式等にすること。

またデータの授受については、電子媒体を使用すること。

イ 検査依頼書及び検査結果報告書仕様

検査依頼情報及び検査結果報告情報については電子媒体のほか、甲が定めるフォーマット、内容、形式等にもとづき紙媒体でも行うこと。

(2) 月間稼働表

検査項目毎の月別検査結果報告件数を甲が定めるフォーマット、内容、形式等にもとづき紙媒体で行うこと。

11 費用負担

(1) 乙が受託業務を行うにあたり、以下の費用は乙の負担とする。

なお乙（各社）が、甲の所定の場所において共通した体制を構築する場合は、その費用分担について、原則受託金額割合に応じて各社調整すること。

ア システム設置費用

甲の検査システムと連動して受託検査の依頼情報、検査結果報告情報を送受信する乙のシステムを設置する費用

上記には甲の検査システムとの接続費用、必要な端末等の機器設置費用、システム・機器メンテナンス費用、分注システム変更に伴う費用及び専用電話回線等の設置や維持に要する費用を含む。

イ 受託検体搬送費用

ウ 乙の施設での人件費・試薬・消耗品等検査に必要な費用

エ 受託検査に必要な伝票類の費用

オ 情報受け渡し用の電子媒体及び検査依頼書・検査結果報告書作成費用

カ 乙と甲との検査に係る連絡・調整費用

(2) その他の費用負担については、甲乙で別途協議し決定する。

12 受託業務実施における乙の遵守事項

(1) 検査項目コードについては甲の指示に従うこと。

(2) 情報・伝票・検体等の授受について

甲の許可なく、甲からの情報（患者ID・患者情報・依頼情報など）及び検体量を変えないこと。

検体の授受に際して患者IDと検体の照合、検体保存条件等について最大限の注意を払うこと。

(3) 検査方法等の変更

乙は、新たに推奨される標準化法に準拠して行うなど検査方法、測定値及び基準値等を変更する必要がある場合、あらかじめ甲と協議しなければならない。

甲が承認した場合は、検査方法ほかを変更する事ができるが、あらかじめ甲に基準値、報告単位及び採血容器等、変更項目についての資料を提出すること。

また、変更に伴う医療安全上のリスク及び現行の診断・治療体系を維持するため、データの継続性について配慮すること。

なお変更にあたり、現行検査方法との比較データ（相関データ等）を前もって提出し、甲乙協議しなければならない。

(4) 検査結果報告方法の変更

甲の承認後に行うこと。また事前に、検査結果受け渡しのテスト作業を行うこと。

(5) 検査受託項目について

少ない検体量で実施できるよう分野分けを行っているので、様々な角度からの診断の補助および様々な疾患の診断が可能な体制を確保し、受託不可能な項目を別の検査センターへ委託する事が、患者の負担増になる採血量の増加に繋がらないように配慮すること。

(6) 検査データの継続性と確保

ア 受託業者が変更になった場合は、新受託業者は前受託業者との結果の互換性と患者における検査結果のデータ継続性を確保しなければならない。このため新規受託者は前受託者とのデータの継続性を保証するため、全ての検査項目（ $n=100$ ）について相関測定（陽性領域50テスト、陰性領域50テスト）を実施し、相関係数を含めた報告資料を受託契約開始までに臨床検査部へ提出すること。なお、相関に用いるサンプル検体および相関測定に関する費用一切は新規受託者の負担とする。

イ 新たな受託者が業務を引き継ぐ時は、十分に引継ぎを行い病院運営に支障を来してはならない。

ウ 受託者が変更となった場合、変更に伴うオーダシステムおよび検査システムのマスタ作成並びに接続に係る費用は、乙の負担とし、連携に係る作業は、甲の医療機能に支障を来さぬよう、受託開始前日の病院業務終了後に実施すること。また、委託項目すべての項目について発注者との連携マスタ情報の整合確認を受託開始前に行うこととする

(7) 検体量

現行の検体量で様々な疾患の検索が可能なように、また追加検査が可能なように、より多くの検査が実施可能な状態を確保すること。

(8) 検査案内

乙は、外注検査に係る院内業務（依頼、問い合わせ対応、報告等）を行うため、平日（土曜日、日曜日、祝日及び特に休日と定められた月～金曜日を除く）の8時30分～17時15分までの間、リアルタイムに対応を可能とし、診療および臨床業務に支障をきたさないシステムを構築すること。

(9) 情報サービス

現行の診断および治療という診療体系へ悪影響が出ないことを目的として、検査の質

およびそれに付随した診療側への検査情報（受託検査項目や関連した新規保険収載項目に関連する情報および最新学術データ等）の情報提供を積極的に行うよう努めること。

13 その他

- (1) 乙は、甲の職員及び業務に従事する各受託業者と十分に連絡・調整を行い協力して業務を円滑に実施できるようにしなければならない。
- (2) 乙は、院内で行う業務について病院という特殊な環境であることを鑑み節度を持って対応すること。
- (3) 乙は、受託検査を再委託する場合は、その委託先を明確にすること。
- (4) 乙は、初めて甲の臨床検査部の検査システムと連動した乙のシステムを設置する場合は、受託検査の依頼情報、検査結果報告情報の送受信について事前のテストを充分に行うこと。
- (4) 診療報酬改定年度においては、契約金額の見直しについて甲乙協議すること。
- (5) 乙は、業務上で知り得た情報を他者に漏らしてはならず、これについては受託業務従事終了後も同様とする。
- (6) 個人情報の取り扱いについては、別紙「個人情報取扱特記事項」のとおりとする。
- (7) 本仕様書に定めのない事項については、甲乙で別途協議する。
- (8) 甲が書面による再三にわたる改善要求を行ったことに対し、乙に甲への改善がみられない場合、また乙の責による診療上影響のあるトラブルが多発した場合には、契約期間中であっても甲からの通告をもって契約解除を含めた処置を行うことがある。